

道明寺天満宮

道明寺天満宮は学業成就祈願と春の梅の花で人気がある場所で、どちらも御祭神の菅原道真（845 年 - 903 年）公と深いかわりがある。

道真公は影響力のある学者であり歌人であり、宇多天皇（876 年 - 931 年）の右大臣であった。道真公は 903 年に亡くなり、学問と文芸の神、天満天神として信仰の対象となった。彼に捧げた天満宮の名が付く神社は、日本全国に何百もある。学生たちは大きな試験の前に神社を訪れ絵馬を掛ける。

多くの天満宮には牛の銅像がある。自分の身体の悪い場所と同じ場所をなでるとそこが治ると言われていることから、参拝者たちは牛の体をなでる。道真公と牛の結びつきは、彼の葬儀の際の逸話に由来する。道真公の遺骸を牛車に乗せて運ぶ途中に、突然牛が動かなくなった。道真公の御心によるものだとその場所に埋葬された。

道明寺天満宮は道真公が生前使用していた有名な品のみを所蔵している。地位を表わす牙笏、青白磁円硯、象牙とべっ甲製の玳瑁装牙櫛、犀角柄刀子、銀装革帯、鳳凰と琴を弾く人物が彫られた銅鏡の伯牙弹琴鏡である。すべて国宝で、特別な日にのみ展示される。

道真公は梅の花をたいへん好み、彼の和歌の中に頻繁に登場させているため、ほとんどの天満宮には境内に梅の木が植えられている。道明寺天満宮の本堂の裏には、80 数種の 800 本以上の梅林からなる梅園がある。2 月中旬から 3 月中旬にかけて、天満宮では有名な梅まつりが行われ、参拝者たちは古典音楽や武道の演武とともに、甘い香りの梅の花を楽しめる。